

UNIVERSAL
DESIGN

いっしょに考えませんか？
ユニバーサルデザイン

軽井沢町

も く じ

はじめに	1
------	---

1 ユニバーサルデザインとは

ユニバーサルデザインとは	2
ユニバーサルデザインの原則	3
バリアフリーとの違い	4
バリアフリーからユニバーサルデザインへ	5

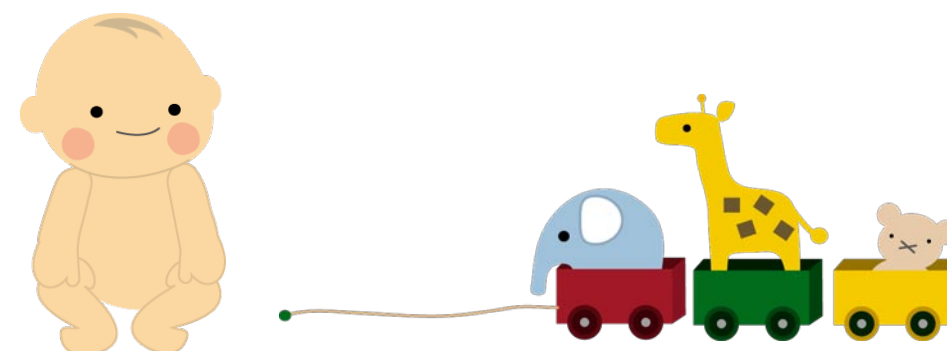
2 推進の背景

(1) 少子化・超高齢化の進展	6
(2) 国際都市として	6
(3) 価値観の多様化	6

3 ユニバーサルデザインが目指すもの

(1) 思いやりの設計	7
(2) ユニバーサルデザインにマニュアルはない	7
(3) できることから始める	8
おわりに	9

わたしたちは、もともと生まれもった性別、身体的能力や言語の違いなど、みんなが違う個性をもった、ひとりの人間として生きています。そして、いつどこで何が起こるかわからない人生だから、みんなが生涯にわたり、安心して生活できるまちづくりを推進するため、ユニバーサルデザインの考え方を普及することを目的とした概要をここにまとめました。



ユニバーサルデザインとは

ユニバーサル： **U**niversal ⇨「すべての」「万人の」

デザイン： **D**esign ⇨「計画」「設計」

を組合わせた言葉です。



その頭文字をとって **UD** とも呼ばれています。

概 要

ユニバーサルデザインは“すべての人が人生のある時点で何らかの障害を持つ”ということを発想の起点としています。

障害の有無、年齢、性別、国籍、人種等にかかわらずみんなが気持ち良く使えるように、はじめから都市や生活環境を計画するという考えです。例えば都市空間であれば、多くの人が利用する駅や空港には、階段のほかにエスカレーターやエレベーターが設置されていますし、なるべく多くの人がわかるように多様なガイダンスが使用されています。また、土地勘のない人や言葉のわからない外国人や子どもにもわかるような、イラスト表記の看板もユニバーサルデザインと言えます。日用品であればシャンプー容器のギザギザは顔が濡れて目を閉じた状態でも手探りで確認できます。建物であれば自動ドアや、みんなが使えるように工夫されている多目的トイレが例として挙げられます。

ユニバーサルデザインは障がい者や高齢者を対象としたものだと思われがちですが、特定の人のために設計するのではなく、はじめからすべての人を対象にデザインしていこうという考え方です。

ユニバーサルデザインの原則

1 公平性

大小・理解度の差に関わらずみんなが同じ方法で利用ができるように

2 自由性・柔軟性

使い方を選べるように・使う上で自由度が高い

3 単純性

使い方が簡単で、すぐに分かること

4 わかりやすさ

だれにでもわかるような伝達手段を用意する

5 安全性

うっかりミスが危険につながらないこと

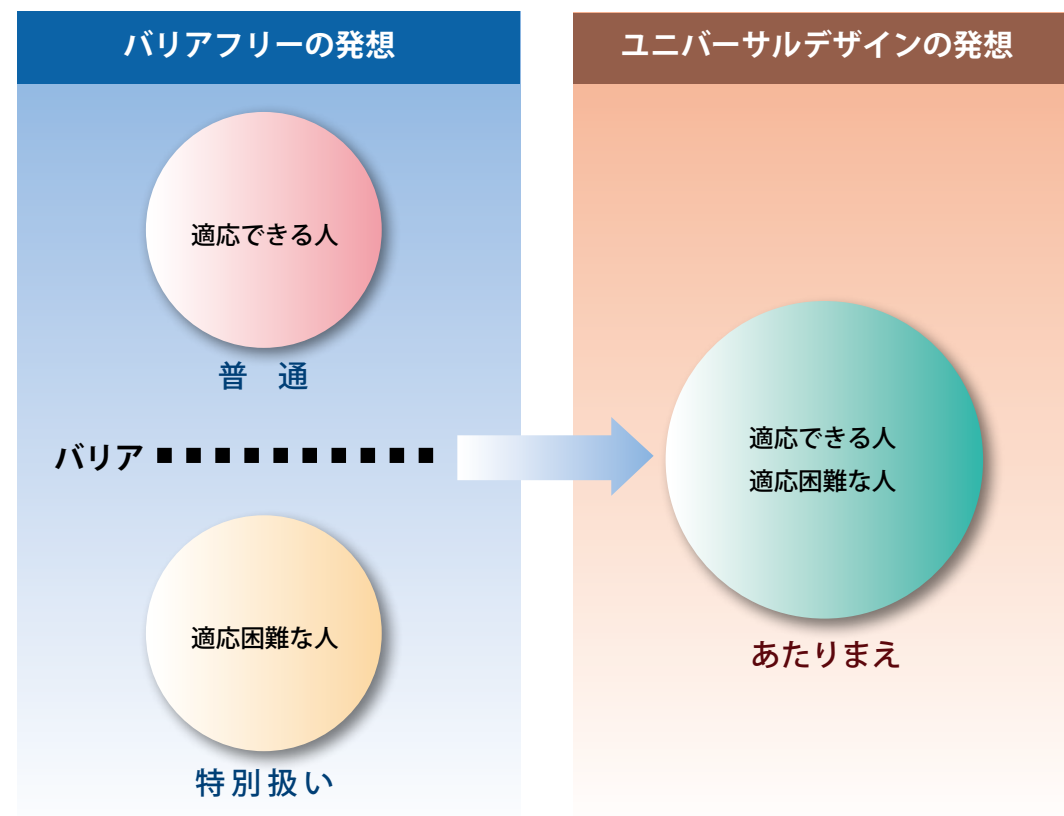
6 省体力

身体への負担なく楽に使えるように

7 スペースの確保

接近や利用するための十分な空間を確保する

バリアフリーとの違い



近年まであらゆる構造は大人の健常者を基準につくられてきました。既存の設備のほかに特別なものを設置することでハンディキャップのある方の利便が健常者の水準に達するようにとバリアフリーが進められてきました。それに対しユニバーサルデザインは、はじめからだれでも使えるものを用意して同じものをみんなで使うという発想転換によって、初期段階から障害を取り除く考え方です。

注意点

ユニバーサルデザインはいろいろな人の利用を補おうとする反面、おのおのの障害に対する配慮が障害特化型商品に比べて劣ってしまったり、すべての人に使いやすいよう考えたつもりが、逆に弊害をもたらしてしまうこともあります。多様化設備の充実に伴う金銭的コストの問題も挙げられます。また、使用コストやニーズが異なるため全てのことに同じような効果や住みやすいまちが作られるわけではないため、ひとつひとつの事に対して、いろいろな人の立場で考えていく必要があります。

バリアフリーからユニバーサルデザインへ

ユニバーサルデザインは「すべて」の人が豊かにくらしていくための構想です。そのために、どのような障害があるのか知っておきましょう。

4つの障害

1. 物理的な障害………大きさや高さの設定で生じる障害
2. 文化や情報の障害………認知度の差で生じる障害
3. 制度的な障害………ハンディキャップを理由とした社会参加の困難
4. 意識的な障害………他者を認めることができない心

ひとの障害種別

視覚障害	目が見えない方と、視野の一部が見えない・範囲が狭いなど目が見えづらい方がいます。
聴覚・言語障害	耳が聞こえない方と、聞こえづらい方がいます。さらに、言語障害を伴う方もいます。
肢体不自由	上肢・下肢に機能障害がある方、また脳に損傷を受けた方もいます。身体のマヒや、言葉の不自由さや、記憶力の低下情緒不安を伴う方もいます。
内部障害	内臓機能の障害です。身体障害者福祉法で定められており、免疫機能障害も含む6種類の病気が定められています。
知的障害	脳に何らかの障害が生じたため、知的な遅れがある方がいます障害が軽度の場合には、会社などで働いている方も大勢います。
発達障害	脳機能の障害で知的遅れがなく言葉や行動などの不自由さを伴います。一見わかりにくい病気です。 ●自閉症や、学習障害（LD）、注意欠陥障害（ADD）、アスペルガー症候群など
精神障害	障害として最も多いのは、統合失調症です。その他の病気、うつ病、アルコール依存症、拒食症など、日常生活や社会生活のしづらさを抱えている方です。

ヨーロッパ地方では、1990年頃に障がい者もふつうの生活を送ることを選択できるよう、ノーマライゼーションという考え方が普及しました。

当時、障がい者は隔離された施設での生活を余儀なくされていたためです。その考え方は後にアメリカへ広がり、健常者と障がい者の生活を別々に考えるのではなく、同じ物を使い、同じ生活を送ることを起点として考えることで、将来的なコスト面の軽減や、差をつけることで生じてしまう差別意識を取り除いていこうとする考え方で生まれたのが、ユニバーサルデザインです。バリアフリーは、個々の種別にだけ通用する、いわゆる特別なものであり、みんなが使えるものではありません。

推進の背景

(1) 少子化・超高齢化の進展

日本は戦後、急速に高度成長を遂げ、先進国の仲間入りを果たしました。戦前や途上中の日本は、多くの人々が貧しく、衣食住を確保することが第一であり、現代のように自分の人生を生きるという選択ができる環境にはありませんでした。また子供を労力とした見方が強い文化傾向にあったため、当時の日本では、子孫繁栄という風習が根強くありました。

現在の日本は豊かになり、結婚や出産育児に対して社会規範意識よりも、人生の選択肢のひとつという考え方が強くなり、家庭を築くことや育児に対する価値観が一変しました。女性の社会参加が当たり前の今、子育てと仕事を両立できる環境整備がなされていないことへの懸念も加わり少子化は加速しています。わずか数十年の間に子供の数が激減したため、長寿国である日本では必然と高齢化が問題視されるようになり、近い将来には、超高齢化社会（人口の25%が65歳以上の事をいう。）に突入します。安心して子供を産み育て、健康で長生きができる社会形成を築くためには、新しく変化する環境に対応できるものの見方や、考え方が必要です。

(2) 国際都市として

軽井沢町は明治以来、国際的な保健休養地として発展し、それ以後も保健休養文化を守り、自然環境を壊さぬよう配慮しつづけてきました。それとともに、観光地としても各地から多くの人々が訪れ、多様化するニーズの中だれにでもわかりやすい情報やサービスが求められています。

(3) 価値観の多様化

日本国憲法の三大原則によって一人ひとりが自由に暮らす権利が守られています。日々の生活の中で憲法や基本的人権制度を意識する事はあまりないと思いますが、人権が守られている一方、道徳心や価値観は個人に委ねられています。その中で個性や経験値の差による人と人との価値観の違いを認め合い、どのような場面でも対応できる個人の意識を多様化させていくことが、これからの変化へ対応できる手法といえます。

ユニバーサルデザインが目指すもの

(1) 思いやりの設計



一時的・部分的 → 連続的・一体的

不特定多数の人が利用する建物や施設を整備するなかで、設計・施工・管理運営におけるユニバーサルデザインの意識づくりを進め、はじめから誰でも使いやすく、誰もが利用しやすい環境づくりをすることで、特定したりされたりすることへの偏見や疎外感がなくなり、物理的な障害のみならず精神面への配慮にも繋がります。

(2) ユニバーサルデザインにマニュアルはない

勘違いしてはいけないのは、マニュアルに織り込まれた対応力に柔軟性はないということです。それは予期された反応にしか過ぎないからです。枠組みの外では使えないものや、予想外の障害に対応できないものは、連続的で一体的ではありません。様々な道具は世にあふれています。それを自分でうまく使いやすきように慣れることや、何かが起きても不安に繋がらないよう、その対処方法を知る努力も必要です。また、フラットで段差のない構造は運動が減るため、体が不自由な人の場合は、使える身体機能の低下や、不自由ではない人にとっても、運動不足になるため健康面へ悪影響を与えることも考えられるのです。ユニバーサルデザインの考え方にあっては、バリアフリー法の措置は臨時的であると解されます。しかし、それらは思いやりや優しさからうまれてきたものであり、失敗ではありません。あらゆるものがユニバーサルデザインであることとはどのようなものなのでしょう。ユニバーサルデザインには、これで終わりというものはありません。いろいろな過程を経て、改善・改良が加えられ、商品の完成度が高まってゆくプロセスを繰り返すことなのです。

(3) できることから始める

ひとにやさしい町づくり

ユニバーサルデザインの取り入れは、ものや建物だけではなく、個人の気持ち、考え方にも必要な優しさと言えます。急にたくさんのお金を使って施設を改良するのではなく、誰かが気づいたときに「こういう風にできるのではないか」という気持ちから、みんなが住みやすい環境に変わっていくのではないのでしょうか。

たとえば、



軽井沢町役場では、もともと車いすの方や障がい者の方のために、入口の近くに優先駐車場を設けていましたが、この様に妊婦さんや赤ちゃんを連れた方のためにも危険の少ない場所を確保しています。それまで気が付かなかったことでも、ちょっとした思いやりで、もっと過ごしやすい優しいまちが生まれていきます。



バリアフリー新法では、ユニバーサルデザインの考え方の取り入れにより、連続的なバリアフリー環境の確保を目指しています。この基準対象は公共施設だけではなく、2000m²以上の遊劇場やスーパーも、飲食店も対象建築物として義務づけられており、建築物の大きさに関係なくホテルや公衆浴場などは努力義務が課せられています。いろいろな立場で協力しあい、住みやすい環境をみんなで作っていくものです。

軽井沢町では、あらたに公共施設整備を行う際、長野県「福祉の町づくり条例」を基に設計し、また国土交通省の発行する様々なガイドラインを参考にしています。

みなさんは、ユニバーサルデザインについて、どのように感じましたか。バリアフリーの強化や、都市的空間の整備を思い浮かべる方もいるかも知れません。また、“ユニバーサルデザイン実現”と言っても一体なにを達成すれば実現するのでしょうか。ユニバーサルデザインは、ひとりも欠けては成らない構想です。考え方やライフスタイルは、人それぞれ違い、その違いを理解することや、多様な物の見方を知らなければ、何も始まらないのです。みんなが笑顔で、バリアのないユニバーサルデザインのまちは、みんなが知ることから始まると考えております。



お問い合わせ先：

軽井沢町 企画課企画係

TEL.0267-45-8504（直通） FAX.46-3165
e-mail/Kikaku@town.karuizawa.nagano.jp